

品名	メ タ ン	国連番号	1 9 7 1
----	-------	------	---------

該 当 法 規 ・ 危 険 有 害 性

消 防 法						毒物及び劇物取締法			高圧ガス保安法		火 薬 類 取 締 法			道 路 法		
種 別						指 定 可 燃 物	品 名 (法別表)	毒 物	劇 物	特 定 毒 物	一 般 高 圧 ガ ス	液 化 石 油 ガ ス	火 薬	爆 薬	火 工 品	施 行 令 第 1 9 条 の 1 2、1 3 に 該 当
第 1 類	第 2 類	第 3 類	第 4 類	第 5 類	第 6 類											

特 性	危 険 性			有 害 性			環 境 汚 染 性		性 状			
	禁水性	爆発性	可燃性	有 害 ガ ス 発 生			目・皮膚に触れると危険	河川への流入注意	固 体	液 体	気 体	水 溶 性
				常 温	加 熱 時 火 災 時	水 に 接 触						

事故発生時の応急措置

車を安全な場所に移動する。(人家や人ごみを避け、できるだけ交通の障害のないような場所に移動し、エンジンを停止し、車止めをする。)

事故の発生を大声で告げ、下記事項を消防署及び警察署に通報し、人を風上に避難させる。

火気厳禁。エンジンの熱や火花は着火源になる。

容器を覆っているシート等を取り除き、ガスを大気に放出・拡散させる。

風上より、消火、漏れ止め、容器冷却、容器移動等の災害拡大防止措置を行う。

下記事項を荷主会社、運送会社、地域防災組織等の関係機関へも連絡する。

緊急通報

1 1 9 (消 防 署) 1 1 0 (警 察 署) 高 速 道 路 の 非 常 電 話

[緊 急 通 報 例]

いつ 時 分頃

どこで 市 地区 (国、県、市) 道 号線 付近で

なにが 「メタンガス (高圧ガス、可燃性) 」が

どうした 漏れています。漏れて火災になっています。

ケガ人は ケガ人がいます (救急車をお願いします) 。ケガ人はいません。

私の名前は 運送会社 です。

緊急連絡

(特 に、休 日 ・ 夜 間 に 確 実 に 連 絡 が と れ る 部 署 の 電 話 番 号 を 記 入 す る)

荷主会社		運送会社	
住 所		住 所	
電 話	平日昼間 休日夜間	電 話	平日昼間 休日夜間

品名	メ タ ン	国連番号	1 9 7 1
----	-------	------	---------

災 害 拡 大 防 止 措 置

特記事項

処理剤

ガスが漏えいした場合、空気中の濃度が5%を超えると、火災や爆発の危険が生じるので、ガスを覆っているシート内に滞留しないよう注意する。非常に軽いガスで、漏れると上部に滞留する。

着火し易いガスであるため、火災だけでなく、高熱物、化繊材の服の静電気や工具使用時の着火源にも注意が必要である。

容器内充てん圧力 : 35 で14.7MPa (150kg/cm²) [ゲージ圧力]以下

爆発範囲 : 5～15.4% (空気中)

相対密度(ガス比重) : 0.55 (空気を1とする。空気より軽い。)

色・臭い : 無色・無臭

容器外面の塗色 : ねずみ色

漏えいしたとき

通風を良くして、ガスが滞留しないようにする。

防災工具を用い、風上より容器バルブ又は漏えいしている部分を静かに増し締めし、漏れを止める。ガス取出口から漏えいしているときは、パッキン及び口金キャップを取り付ける。

漏れが止まらないときは、着火源を避け、通風の良好な安全な場所で大気に拡散させる。

周辺火災のとき

容器を安全な場所へ移動する。

移動することが不可能な場合は、容器の破損防止のために容器及び周囲に散水する。

引火・発火したとき

近くに着火源がなくガスが滞留しない場所で、風上より消火し、漏えい防止措置を施す。

容器の温度が高い場合は、発火している容器及び周囲の容器に噴霧散水した後、周囲の容器を安全な場所に移動する。

周辺及び漏えい状況から判断して、消火するとかえって危険性が増すと考えられるとき等は、火災の拡大・類焼を防止するため、周囲に噴霧散水しながら、容器内のガスがなくなるまで燃焼させる。

救急措置

火傷の場合は、きれいな水や氷で患部を冷やす。ショック状態の場合は頭を低くして寝かせ、暖める。

多量に吸入した場合は、直ちに患者を毛布等にくるんで安静にさせ、新鮮な空気のある場所に移す。

呼吸が停止しているときは人工呼吸を行う。呼吸困難なときは酸素吸入を行う。

患者が発生した場合は、できるだけ早く医師の手当を受ける。